

概

況

# 概 況

## 1. 取扱高

### (1) 年間取扱高

平成7年中（1月5日から12月30日、開市日数 273日）の総取扱数量は、738,236 tで前年比 96.8%と前年を下回り、総取扱金額は、680,173百万円で前年比 95.4%と前年を下回った。総平均価格は 921円で、前年に比べ14円安となった。取扱数量では、鮮魚は、マイワシ、サバ、サンマなどが減少したが、メジ、ハマチ、カツオなどが増加となり、全体では 4.2%増となった。活魚は、活アナゴ、活ヒラメなどが増加し、全体で 5.4%増となった。冷凍魚は、イカ類、タコなどを始め全般に大幅な減少で、全体では 10.7%減となった。加工品は、丸干イワシ、煮タコなどが減少し、全体では、3.6%減となった。取扱金額では、鮮魚は 0.6%減、活魚は 1.9%減、貝類は 4.1%減、冷凍魚は 10.1%減、淡水魚は 2.1%増、海藻類は 1.3%減、加工品は 3.1%減となった。平均価格では、鮮魚は 4.6%安、活魚は 6.9%安、貝類は 3.7%安、冷凍魚は 0.7%高、淡水魚は 9.6%安、海藻類は 0.5%高、加工品も 0.5%高となった。

### (ア) 生鮮品

鮮魚の取扱数量は 191,772 tで、前年比 104.2%と増加し、平均価格は 967円で、前年比47円安となった。主要品目で見ると、マグロ（国内）は入荷が 4.8割減少し、平均価格が 288円高、メジは 3.6倍増の 438円安、養殖ハマチも 4.3割増で 291円安となった。マイワシは 1.9割減で93円高、イカ類は前年並となった。サケ・マス類は全体で0.4割増の62円安、エビ類はアカエビが 4.3割増で 586円安となり、サバが 1.2割減、サンマも 1.1割の減少となった。

活魚の取扱数量は14,650 tで、前年比 105.4%となった。品目別には、活カンパチ、活クロタイ、活シマアジが減少したものの、他の品目は活ヒラメ 2.1割増など、全般に増加した。平均価格は1,649円で、入荷増から122円安となった。

生鮮貝類の取扱数量は、50,249 tで前年比99.3%となった。平均価格は 897円で、34円安となった。品目別には、アオヤギが 1.7割増で99円安、カキは 0.4割増も16円高、ハマグリは 0.3割増で16円安、アサリはほぼ前年並の入荷で19円高となった。ホタテ貝は0.4割減で前年並の価格となった。

生鮮淡水魚の取扱数量は 3,278 tで、前年比 100.2%と僅かに増加し、平均価格は 1,450円で、36円安となった。品目別には、ワカサギが 3.4割増で、75円安となった。ウナギが前年並の入荷で22円高となった。

### (イ) 冷凍品

冷凍魚の取扱数量は 191,581 tで、前年比89.3%と大きく減少し、平均価格は 1,028円で、前年比 7円高となった。品目別には、冷マグロ類は、メバチの 0.3割増など、全体で 0.7割増となり、124円安の 1,463円となった。冷イカ類は、スルメイカ（国内）の減少など、1.7割の減少も12円安の 629円となった。冷サケ・マス類と冷エビ類は、1.1割と大幅な減少となったものの、平均価格では、冷サケ・マス類が69円、冷エビ類も46円と値を下げた。その他、冷ギンタラは 1.1割減で10円高、冷タコの 2.2割減の 129円高などとなった。

冷凍貝類の取扱数量は 5,900 tで、前年比 102.8%となった。平均価格は 1,197円で、前年比65円安となった。品目別には、冷ホタテ貝は前年並の入荷も、平均価格では93円

安となった。冷ムキカキは 0.4割増加し、価格12円安となった。

冷凍淡水魚の取扱数量は、1,027 tで前年比 190.4%と大幅に増加し、平均価格は 684円で 204円安となった。

### (ウ) 加工品

加工品の取扱数量は 272,181 tで、前年比96.4%と減少した。平均価格は 783円で、前年比 4円高となった。品目別には、塩蔵品は、塩サケの減少などから、全体で 0.4割減で4円高となった。塩干品は、丸干イワシが 2.5割減となり、開干アジも減少して、全体でも 0.3割減の26円高となった。煮干製品は 0.7割減で68円高、焼物製品も、ウナギの減少で 0.6割減の 3円高となった。他、素干品は 0.2割減少で87円高、練製品が 0.2割減の 7円安となった。湯煮品は、煮タコの 1.3割減 161円高など、全体で 1.3割減の 105円高となった。

### (2) 月別取扱高

#### 1月

☆鮮魚 取扱数量 13,338 t（対前年比 106.4%）  
平均価格 1,097円（ " 97円安）

取扱数量では、マグロは、国内物が三陸・紀州方面の水揚げ不振から 3.2割減、輸入物も 2.3割減、昨年入荷の少なかったメジは好調な入荷で 4.3倍増となった。メバチは、国内物が近海域の水揚げ不調の影響から 4.4割減、輸入物は順調で 5.2割増となった。マアジは九州・山陰を中心に漁況が上向き 0.4割増、サバは最漁期を過ぎたが九州方面の好漁など 0.6割増となった。マイワシはこの時期の主力となる北陸方面の定置網漁が薄漁のため 3.1割減、スルメイカは時化の影響もあり1割減少した。ハマチは 3.3割増、カレイ類も 1.9割増となった。平均価格では、メジは大量の入荷から 5.5割安、メバチは、国内・輸入とも1割安となった。マイワシは漁の不調、特に大型品が品薄で高値をつけるなど 7.5割高、サバ、スルメイカはやや高くなった。カツオは 5.7割安、ハマチは最大の需要期を過ぎ、在池量の多さも伝えられ 3.4割安となった。カレイ類は 0.9割安、タラ類は 0.4割安となった。

☆活魚 取扱数量 1,075 t（対前年比 98.9%）  
平均価格 1,615円（ " 44円安）

取扱数量では、活カンパチは 1.1割増となり、活マタイが 1.8割減、活ハマチが 1.4割減となった。平均価格では、活マタイが3割高、活アナゴが 0.8割高となり、活ハマチが 2.7割安、活カンパチが 2.6割安となった。

☆貝類 取扱数量 4,440 t（対前年比 89.7%）  
平均価格 1,014円（ " 48円高）

取扱数量では、アサリ、ハマグリ、シジミなど全般に減少した。平均価格では、アオヤギが 1.5割高となるなど、入荷量の減少から全体ではやや高くなった。

☆冷凍魚 取扱数量 13,597 t（対前年比 87.6%）  
平均価格 1,052円（ " 84円高）

取扱数量では、冷マグロ類は、印度マグロが5割増となったものの、主力のメバチの1割減など、全体ではほぼ前年並となった。冷イカ類は、前年入荷の多かった国内物スルメイカが 4.8割減となったことから、全体で 0.9割減、冷カレイ類は生鮮物の出回りが増加したことから 3.4割減、冷エビ類は業務需要の停滞から 0.9割減となった。冷サケ・マス類は、シロサケの 6.1割増、ベニサケの 3.1割増で、全体でも 3.3割増となった。平均価格では、冷マグロ類は、

印度マグロの 2.5割安を始め、全体でも 0.4割安となった。冷イカ類は、モンコウイカの 1.8割安など、全体で 0.6割安となった。冷サケ・マス類は、ベニサケの 4.7割高から、全体で 1.4割高となった。冷ギンタラが 4.4割高、冷タイ類は 1.3割高となった。

☆加工品 取扱数量 19,242 t (対前年比 96.4%)  
平均価格 718円 ( " 1円高)

取扱数量では、塩蔵品は、塩シロサケの 2.9割増、イクラの 2.8割増など、全体で 0.2割増、煮干製品は、煮干イワシの 2.1割増など、全体では 1.1割増となった。湯煮品は 1.9割減、塩干品は 0.6割減、素干品も 0.9割減となった。平均価格では、塩蔵品は、塩ベニサケの 4.7割高など、全体で 0.2割高、湯煮品は 1.7割高、煮干製品は、シラス干の 0.9割安など全体で 0.8割安、練製品は 0.8割安となった。

## 2月

☆鮮魚 取扱数量 14,424 t (対前年比 113.1%)  
平均価格 1,007円 ( " 133円安)

取扱数量では、マグロは、国内物が延縄漁の低調な水揚げなどで 5.8割減、輸入物はギリシャ・スペイン物などが増え 5.8割増、メジは依然好調で 7.7倍増、メバチは、国内物が 1.8割減となったが、輸入物が 3.6割増となった。マアジは、九州方面を主体に順調な水揚げで 1.2割増、サバは 0.9割減、マイワシは日本海や山陰を中心に漁が低調で 2.4割減、スルメイカは端境期とあって少なめの入荷も昨年が極端に少なかったことから 6.8割増となった。ハマチは連日順調な入荷が続く 7.5割増、カツオは 7.4割増、カレイ類も 1.4割増となった。平均価格では、マグロ類は、マグロ(国内)が 1.2割高となったほか、メジが 5.8割安、メバチ(輸入)が 1.4割安など全般に安値となった。マアジは 0.5割安、サバは 1.3割高、マイワシは入荷減少から 2.5割高、スルメイカが 2.3割安となった。安値が続くハマチは 4.2割安、カツオも 4.5割安となった。

☆活魚 取扱数量 1,085 t (対前年比 109.2%)  
平均価格 1,562円 ( " 199円安)

取扱数量では、活マタイが 0.6割減となったが、活カンパチが 1.8割増、活ヒラメが 1割増、活アナゴも 0.8割増となった。平均価格では、活ハマチが 3.7割安、活カンパチが 2割安、活アナゴ、活マタイもやや安くなった。

☆貝類 取扱数量 4,465 t (対前年比 94.7%)  
平均価格 952円 ( " 21円高)

取扱数量では、アオヤギ、ムキカキが 1割程増加したが、アサリ、シジミ、アカ貝などが減少した。平均価格では、入荷の減少からやや高くなった。

☆冷凍魚 取扱数量 13,862 t (対前年比 78.8%)  
平均価格 975円 ( " 82円高)

取扱数量では、冷マグロ類は、印度マグロが 6.8割増となったが、キワダの 4.2割減を始め、メバチが 0.5割減など、全体では 0.2割の増加となった。冷イカ類は、スルメイカ(国内)が 6.6割減、モンコウイカが 5.9割減など、全体でも 3.5割減、冷カレイ類も 3.1割減少した。冷サケ・マス類は、ベニサケの 1.9割減から、全体も 0.3割減、冷エビ類も 2.2割減となった。その他、冷ギンタラは 3.4割減、冷サバは 5割減、冷タコは 3.2割減となった。平均価格では、冷マグロ類は、印度マグロの 3割安など、全体では 0.5割安となった。冷サケ・マス類は、シロサケが 2.3割安となったもののベニサケの 2.9割高など、全体で 0.3割安高、冷エビ類は 0.2割高となった。冷ギンタラは 2.8

割高、冷サバが 1.6割高、冷タコも 7.1割高となった。

☆加工品 取扱数量 20,811 t (対前年比 95.8%)  
平均価格 697円 ( " 12円安)

取扱数量では、塩蔵品は、塩アキサケが 9.4割増や、塩シロサケの 3割増も塩ベニサケの 2.4割減、スケコ 1.9割減など、全体ではほぼ前年並、塩干品は 0.7割減少した。煮干製品は、煮干イワシが 1.4割増、シラス干が 4.7割増など、全体でも 1.2割増加した。練製品は 0.3割減、湯煮品も 2割減となった。平均価格では、塩蔵品は昨年並、塩干品は、丸干イワシの 2割高など、全体では 0.3割高となった。煮干製品は、シラス干が 2.6割安などで、全体で 2.2割安、練製品は 0.4割安、湯煮品は 1.3割高となった。

## 3月

☆鮮魚 取扱数量 15,597 t (対前年比 109.7%)  
平均価格 1,028円 ( " 116円安)

取扱数量では、マグロは国内物が 3.5割減、輸入物はスペイン産が好調で 1.9割増、メジは 5倍増、メバチは国内・輸入ともやや減少した。マアジは九州方面で依然好漁が続く 1割増、サバは休漁や時化の影響から 1.6割減となった。マイワシは九州方面でやまとまった漁がみられたものの低調で 3.1割減、スルメイカはほぼ前年並、ハマチは豊富な在庫から 9.5割増、カツオは東海・紀州物が好調で 1.8割増となった。平均価格では、マグロ類は、メジが大量の入荷から 4.6割安など全体でもやや安め、ハマチも入荷増で 4.5割安となった。マアジは 0.9割安、サバは小型中心で 2.6割安、マイワシは入荷少なく 2.3割高、スルメイカは前年並、カツオが 2割安、キンメタイ 1.4割安となった。

☆活魚 取扱数量 1,268 t (対前年比 104.3%)  
平均価格 1,635円 ( " 171円安)

取扱数量では、主要品目の活アナゴが 0.8割減、活マタイも 0.4割減となったが、活カンパチが 1.6割増、活ハマチが 0.4割増など、全体に前年を上回った。平均価格では、活アナゴが入荷減から 0.3割高となったほかは、全般に安値となった。

☆貝類 取扱数量 4,985 t (対前年比 97.8%)  
平均価格 920円 ( " 7円安)

ハマグリ、サザエ、ムキカキが増加したが、アサリ、シジミ、ホタテ貝などが減少した。平均価格は、ほぼ前年並であった。

☆冷凍魚 取扱数量 16,969 t (対前年比 84.9%)  
平均価格 993円 ( " 18円高)

取扱数量では、冷マグロ類は、キワダが半減したものの、印度マグロの 5.5割増とメバチが 0.2割増加したため、全体で 0.7割増となった。冷イカ類は、スルメイカ(国内)の 1.1割減、モンコウイカの 5.7割減など、全体でも 2.4割減少した。冷サケ・マス類も、シロサケが 5.4割減、ベニサケの 2.4割減から、全体でも 0.2割減、冷エビ類は、アカエビの 3割減など、全体で 2.6割減となった。冷カニ類は 5.2割減、冷サバは 1.9割減、冷タコも 1.3割減となった。平均価格では、冷マグロ類は、印度マグロの 2.6割安など、全体でも 1割安、冷イカ類は 1.1割安、冷サケ・マス類は、ベニサケの 2.5割高を始め、全体でも 0.7割高となった。冷エビ類も、円高による海外の浜高などの影響もあり、全体で 0.6割高となった。冷タコは 3.5割高となった。

☆加工品 取扱数量 22,956 t (対前年比 91.0%)  
平均価格 726円 ( " 36円安)

取扱数量では、塩蔵品は、塩シロサケが 0.8 倍増、塩ギンサケが 3.2 割増に対し、塩アキサケが 3.5 割減、塩ベニサケの 4 割減など、全体で 1.3 割減となった。塩干品は、丸干イワシの 2.8 割減など、全体では 0.6 割減、煮干製品は 2.9 割減となった。練製品は、カマボコ・揚物はやや増加したものの、全体で 0.2 割減となった。平均価格では、塩蔵品は、品不足から塩アキサケが 2.7 割高、塩ベニサケが 2.4 割高となり、全体でも 0.6 割高となった。塩干品・練製品はほぼ前年並、煮干製品は 1.5 割安となった。

4 月

☆鮮魚 取扱数量 14,626 t (対前年比 99.4%)  
平均価格 996円 ( " 81円安)

取扱数量では、マグロ類は、昨年入荷の少なかったメジが 2.9 倍増、マグロは国内物が依然低調で 5.3 割減、輸入物は地中海産を中心に 2.6 割増、メバチは国内・輸入とも 0.2 割増となった。マアジはほぼ前年並、昨年好調だったサバは 2.3 割減も例年並の入荷、マイワシは山陰などの低調な水揚げも影響し 3.9 割減、スルメイカは 1.8 割減、ハマチは大量の入荷が続き 8.1 割増、カツオは小型ながら順調で 1.2 割増となった。タラ類は 2.7 割増、キンメタイは 2.4 割減、カレイ類は 1.4 割の減少となった。平均価格では、マグロ類は、メジが 5.3 割安、メバチは国内・輸入とも 2 割程度安く、キワダ (国内) の 1.7 割安など全体に安値の傾向だった。サバは浜値の影響もあり 6.2 割高、マイワシは入荷減など 4.8 割高、ハマチは 4.1 割安、カツオも 2 割安、マアジ・スルメイカは前年並となった。カニ類は 1.1 割安、タラ類も 0.6 割安となった。

☆活魚 取扱数量 1,236 t (対前年比 101.0%)  
平均価格 1,655円 ( " 186円安)

取扱数量では、活マタイが 1 割減、活アナゴが 0.2 割減となったものの、活カンパチの 0.9 割増など全体では前年を上回った。平均価格では、活ハマチが 4 割安、活カンパチが 1.9 割安、活マタイが 0.5 割安などとなった。

☆貝類 取扱数量 4,410 t (対前年比 91.1%)  
平均価格 888円 ( " 22円安)

ムキカキ、アオヤギなどが増加したものの、ホタテ貝、シジミ、ハマグリ、アサリなどが減少した。

☆冷凍魚 取扱数量 17,329 t (対前年比 83.7%)  
平均価格 978円 ( " 5円高)

取扱数量では、冷マグロ類は、主力のメバチが 0.3 割減となったものの、印度マグロの 5.4 割増など、全体では 0.2 割増となった。冷イカ類は、スルメイカ (国内) の 2

割減、モンコウイカの 4.2 割減など、全体でも 1.6 割減となった。冷サケ・マス類は、ベニサケが 2.6 割減、シロサケが 2.2 割減となったものの、全体では 1.3 割増となった。冷カレイ類は 1.4 割減、冷エビ類はアカエビの 1.3 割減など 1.7 割減となった。冷サバは 3.5 割減、冷タコは 5.5 割減となった。平均価格では、冷マグロ類は、メバチが 1.3 割安、印度マグロの 2.8 割安など、全体でも 1.1 割安となった。冷イカ類は、モンコウイカの 2 割安や、ムキイカの 1.9 割安など、全般に安値で 1.5 割安となった。冷サケ・マス類は、ベニサケの 1.8 割高も全体ではほぼ前年並となった。冷タコは 2.1 割高、冷ギンタラは 1.6 割安、冷カニ類は 2.5 割高となった。

☆加工品 取扱数量 22,479 t (対前年比 90.1%)  
平均価格 755円 ( " 11円高)

取扱数量では、塩蔵品は、スケコが 3.1 割増、塩シロサケが 2.7 割増となるも、塩ベニサケが 2.7 割減、塩アキサケ 5.7 割減など、全体では 1 割減となった。塩干品は、シシャモが 3.8 割増となったものの開干品が減少し全体では 0.3 割減、煮干製品は、シラス干が 2.7 割減、煮干イワシも 1.6 割減で、全体では 3.2 割の減少となった。練製品は、揚物が 0.3 割減、カマボコも 0.2 割減し、全体では 0.6 割減となった。平均価格では、塩蔵品は、塩アキサケが 3.4 割高、塩ベニサケの 2 割高など、全体でも 0.8 割高となった。塩干品は、0.3 割高、煮干製品は 0.7 割高、練製品はほぼ前年並となった。

5 月

☆鮮魚 取扱数量 16,527 t (対前年比 113.0%)  
平均価格 890円 ( " 98円安)

取扱数量では、マグロ類は、マグロの国内物が 5.3 割減となったものの輸入物が 4 割増、メジは昨年的大量入荷をさらに上回り 0.6 割増、メバチは国内物が 0.6 割増、輸入物が 1.5 割の増加となった。マアジは九州物を主体に 0.9 割増、サバはほぼ前年並、マイワシは入荷が上向くも 2.5 割減、スルメイカは好調だった昨年と比べると 1 割減となるものの順調な入荷となった。ハマチは 8.8 割増、カツオは水揚げが順調で 1.5 割増となった。カレイ類は 1.5 割増、カニ類が 1.4 割増、イサキも 2.9 割の増加となった。平均価格では、マグロ類は、マグロ (国内) が品薄から 3.4 割高、メジは入荷多く 3.5 割安、メバチは国内・輸入とも安値となった。マアジは 0.9 割安、サバが 1.3 割高、マイワシも 1.7 割高、スルメイカは 0.5 割安、ハマチは入荷過剰で 4.2 割安、カツオは 1.2 割安となった。カレイ類が 0.5

図 1-1 総取扱数量の動き

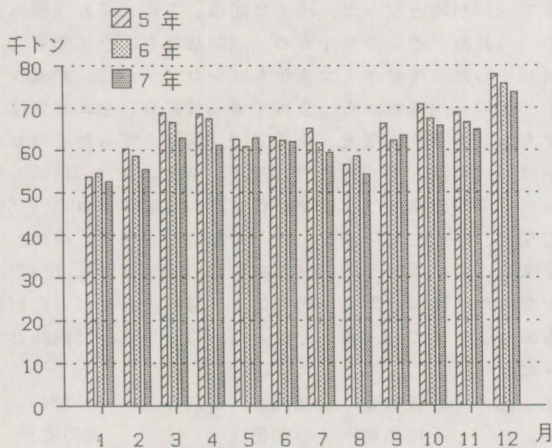


図 1-2 総平均価格の動き

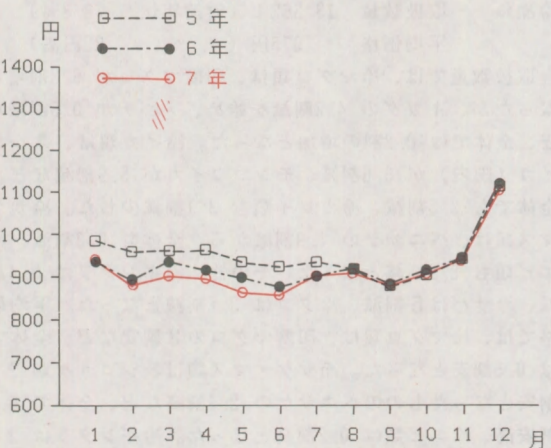


図2-1 鮮魚取扱数量の動き

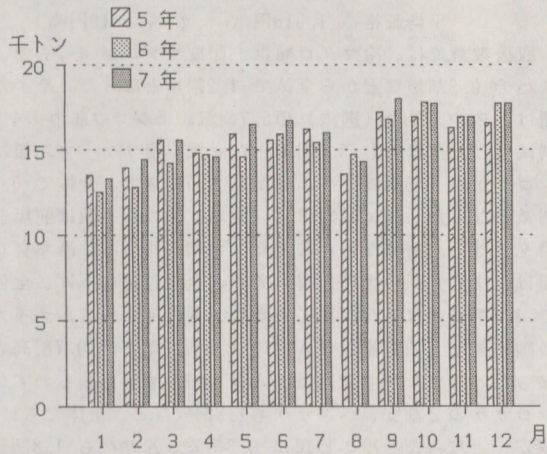
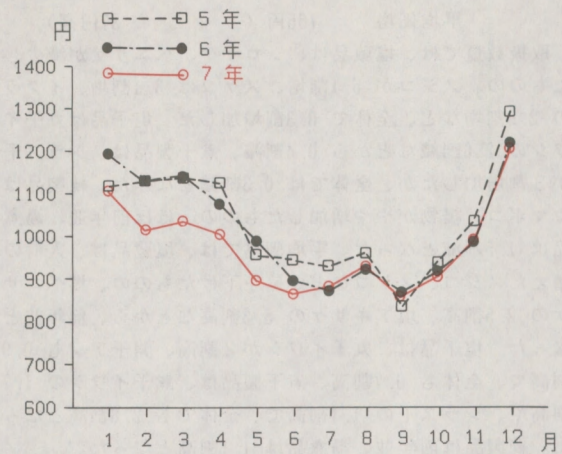


図2-2 鮮魚平均価格の動き



割安、カニ類も 1.2割安となった。

☆活魚 取扱数量 1,324 t (対前年比 117.3%)  
平均価格 1,504円 ( " 305円安)

取扱数量では、活アナゴが 1.6割増、活マタイが 1.9割増、活ハマチが 0.6割増、活カンパチも 1.7割増など全般に増加した。平均価格では、入荷増から、活ハマチが 3.7割安、活マタイが 3.1割安など全体的に値を下げた。

☆貝類 取扱数量 4,653 t (対前年比 109.0%)  
平均価格 855円 ( " 65円安)

アサリ、シジミ、アカ貝、アオヤギなどの主力品が増え、全体でも、増加した。

☆冷凍魚 取扱数量 16,640 t (対前年比 97.3%)  
平均価格 959円 ( " 44円安)

取扱数量では、冷マグロ類は、メバチが 1.3割増、印度マグロが 8.8割増となったことから、全体で 1.8割の増加となった。冷イカ類は、モンコウイカの 2.8割減を始め、スルメイカ(国内)の 2.7割減、ムキイカの 2.6割減など全体では 1.3割減となった。昨年低調だった冷サケ・マス類は、ベニサケ 1.7割増など、全体で 0.6割増となったがまだ少なめ、冷エビ類は 1.4割減、冷カレイ類も 1.5割減、冷タコは 1.6割増となった。平均価格では、冷マグロ類は、入荷増から、全体で 1.2割安となった。冷イカ類は、入荷減少するも荷動き悪く 1.1割安、冷サケ・マス類はほぼ前年並、冷エビ類は、アカエビが 0.2割高となったものの、全体では前年並となった。冷タコは 1.3割高、冷ギントラが 1割安となった。

☆加工品 取扱数量 22,578 t (対前年比 変わらず)  
平均価格 751円 ( " 29円高)

取扱数量では、塩蔵品は、塩ベニサケが 3.1割減となったものの、塩シロサケ 8割増のほか、スケコ、スジコ、イクラなどが増加し、全体では 0.3割増加した。塩干品は、開干アジの 0.4割増などで、全体でも 0.2割増となった。煮干製品は 0.5割減、練製品は、カマボコが 1.7割増加し、0.3割増となった。平均価格では、塩蔵品は、入荷の減少から、塩アキサケの 3.9割高、塩ベニサケが 2割高となったが、塩シロサケの 3.3割安、スケコが 0.8割安などで、全体では前年並となった。塩干品は、開干アジの 0.4割高から、全体でも 0.4割高、煮干製品はシラス干が 1.6割高となるなど 1.3割高、練製品はほぼ前年並となった。

6月

☆鮮魚 取扱数量 16,711 t (対前年比 104.8%)  
平均価格 857円 ( " 40円安)

取扱数量では、マグロ類は、マグロ(国内)が 3.5割減、キワダ(輸入)が 2.8割減となったものの、メバチ(国内)の 4倍増、キワダ(国内)が 2.9倍増となり、メジも 9.2割増加するなど、全体では前年を上回った。マアジはほぼ前年並、サバは水揚げの減少から 0.7割減、マイワシは前月を上回ったものの 2.1割の減少、スルメイカは 1.9割減、ハマチは依然大量入荷が続き 5.6割増、カツオも 0.4割増となった。カレイ類は 1.5割減、マタイは、天然物が 3割増、養殖物は 0.7割増、輸入物も 1.2割増となった。平均価格では、マグロ類は、マグロ(国内)が 0.5割高となったものの、メバチ(国内)が 5.5割安、キワダ(国内)が 4.8割安、メジの 4割安など軒並み値を下げた。マアジは 1.2割高、サバが 1.4割高、マイワシはまだ入荷水準が低く 2.6割高となった。スルメイカも 1.7割高、ハマチは大量入荷から 3.3割安となった。カツオが 1.4割安、イサキも 2.2割安となった。

☆活魚 取扱数量 1,337 t (対前年比 108.4%)  
平均価格 1,499円 ( " 157円安)

取扱数量では、活マタイが 1.9割増、活アナゴは 0.9割増、活カンパチが 0.7割増、活ハマチも 0.4割の増加となった。平均価格では、主力の活アナゴ、活マタイ、活ハマチ、活カンパチのいずれも値を下げ、全般に安値の傾向となった。

☆貝類 取扱数量 4,421 t (対前年比 103.5%)  
平均価格 865円 ( " 71円安)

取扱数量では、アオヤギ、ホタテ貝、トリ貝、アサリ、シジミなどが増加した。平均価格では、入荷が増加したことから、やや安くなった。

☆冷凍魚 取扱数量 15,586 t (対前年比 94.6%)  
平均価格 952円 ( " 43円安)

取扱数量では、冷マグロ類は、メバチが 0.2割増、印度マグロ 5割増など、全体でも 0.6割増となった。冷イカ類は、ムキイカの 3.8割増も、スルメイカ(国内)の 4.4割減、モンコウイカの 2.6割減など、全体では 1割の減少、冷サケ・マス類は、シロサケ、ベニサケの 1.4割減など、全体でも 0.7割減となった。冷エビ類は前年並、冷タコは 0.5割減となった。平均価格では、冷マグロ類は全般に値を下げ全体で 1.2割安、冷イカ類は、入荷減少するも振るわず 1割安となった。冷サケ・マス類は、ベニサケが 1.2割高、シロサケが 0.3割安など区々で、全体では昨年並、冷エビ類は、アカエビの 0.5割安などから、全体で 0.9割安となった。冷タコは 1割高、冷サバも 1割高となった。

☆加工品 取扱数量 22,705 t (対前年比 97.7%)

平均価格 765円 ( " 37円高)

取扱数量では、塩蔵品は、シロサケ、ベニサケが減少したものの、スジコが 5.1割増、スケコは 3.1割増、イクラの 2.9割増など、全体で 0.3割増加した。塩干品は丸干イワシの 2.6割減などから 0.4割減、煮干製品は、シラス干が 3割増加したが、全体では 0.3割減となった。練製品は、カマボコ、揚物がやや増加したものの、ほぼ前年並、湯煮品は 1.5割減となった。平均価格では、塩蔵品は、入荷の増えたスジコ、スケコなどが値を下げたものの、塩ベニサケの 2.5割高、塩アキサケの 5.3割高などから、前年並となった。塩干品は、丸干イワシが 2割高、開干アジも 0.9割高で、全体も 0.7割高、煮干製品は、煮干イワシの 1.7割高や、シラス干の 1.1割高で、全体でも 2.8割高となった。練製品は前年並、湯煮品は 1.1割高となった。

7月

☆鮮魚 取扱数量 16,040 t (対前年比 104.0%)  
平均価格 889円 ( " 16円高)

取扱数量では、マグロ類は、マグロの国内物が 2.7割減、輸入物は 7.2割増、昨年極端に入荷が少なかったメジは豊漁で、10日には今年最多の67.6tの入荷を記録するなど、23倍増、キワダ、メバチは、国内物がいずれも2倍を超え、輸入物は 3.3割減となった。マアジは九州各地での水揚げが伸びず 0.7割減、サバは前年並、マイワシは近海物が減少するなど 1.1割減、となった。スルメイカが 0.8割増、ハマチは 3.3割増、三陸物が主体となったカツオは 1.9割減、マタイ(養殖)は 1.7割増となった。平均価格では、マグロ類は、大量入荷のメジが 7.1割安となった影響を受け、全般に安値となった。マアジは 3.3割高、サバが 2.1割高、入荷の少なかったマイワシも 2.4割高となった。スルメイカは 2.4割高、ハマチは依然低調で 2.4割安、カツオは 2.5割高となった。

☆活魚 取扱数量 1,311 t (対前年比 106.6%)  
平均価格 1,673円 ( " 96円安)

取扱数量では、活マタイが 2.4割増、活ヒラメは 2割増、活ハマチが 1.1割増、活カンパチが 1.3割減となった。平均価格では、活カンパチが 2割高となったものの、入荷増から全体にやや値を下げた。

☆貝類 取扱数量 4,173 t (対前年比 103.2%)  
平均価格 932円 ( " 26円安)

サザエ、アサリ、ムキホタテ貝などが減少したものの、アオヤギ、ホタテ貝、アカ貝などが増加した。

☆冷凍魚 取扱数量 15,047 t (対前年比 86.5%)

平均価格 1,016円 ( " 10円高)

取扱数量では、冷マグロ類は、印度マグロが 4.7割増、メバチ 0.9割増などから全体で 1.2割増となった。冷イカ類は、スルメイカ(国内)の 5.7割減、モンコウイカの 4.2割減など、全体でも 3.8割減となった。冷サケ・マス類は、シロサケが 2.5割減、ベニサケも 1.7割減で、全体で 0.9割減となった。冷エビ類は 0.1割増、冷カレー類は前年並、冷タコは 2.1割減などとなった。平均価格では、冷マグロ類は、生鮮メジの大量入荷もあり、全般に値を下げ、全体で 1.3割安となった。冷イカ類は、入荷減からスルメイカの国内物が 1.7割高、SA物の 2.5割高など、0.7割高となった。冷サケ・マス類は、入荷が減少するも振るわず、シロサケの 2割安、ベニサケも 1.8割安など、全体でも 1.4割安、となった。冷エビ類は 0.3割安、冷サバも 1.8割安、冷タコは 1.1割高となった。

☆加工品 取扱数量 21,625 t (対前年比 96.9%)  
平均価格 794円 ( " 5円高)

取扱数量では、塩蔵品は、塩シロサケが 5.4割増も、塩ギンサケの 4.5割減、塩ベニサケも 3.3割減の影響で、全体では 0.9割の減少となった。塩干品は、シシャモの 3割増など、全体では 0.4割増となった。煮干製品は、煮干イワシが 4.5割減、シラス干の 1.8割減など、2割減少した。練製品は、揚物の 1.9割増で 0.7割増となった。平均価格では、塩干品は、スジコ、イクラ、塩シロサケが、入荷増から安値となった上、減少した塩ベニサケ、塩ギンサケなども値を下げ、全体で 0.2割安となった。塩干品は、開干アジ 1.5割高、シシャモの 1.2割安など、全体で 0.7割高、煮干製品は 2.4割高、練製品は 0.4割安となった。

8月

☆鮮魚 取扱数量 14,317 t (対前年比 97.7%)  
平均価格 926円 ( " 3円高)

取扱数量では、マグロ類は、昨年好調だったマグロ(国内)は巻網物主体に不調で 8.4割減と大幅に入荷が減少した。メジは好漁が続き 3倍増、キワダ(国内)は 2.6割増、メバチの国内物が 2.8倍増、輸入物は 2.5割減となった。マアジは 0.6割減、サバは 1.7割減、マイワシは不安定な入荷が続き 2.8割減、スルメイカが 0.4割減、ハマチは 2.3割増となった。カツオは産地水揚げが安定し 5.8割増、解禁となったサンマは 1.9割減となった。平均価格では、マグロ類では、マグロは国内物の不調から輸入物が買われ 1.8割高、入荷の多いキワダ(国内)が 3.9割安、メジが 3.6割安、メバチ(国内)も 2.1割安となった。マアジが 1.9

図3-1 貝類取扱数量の動き

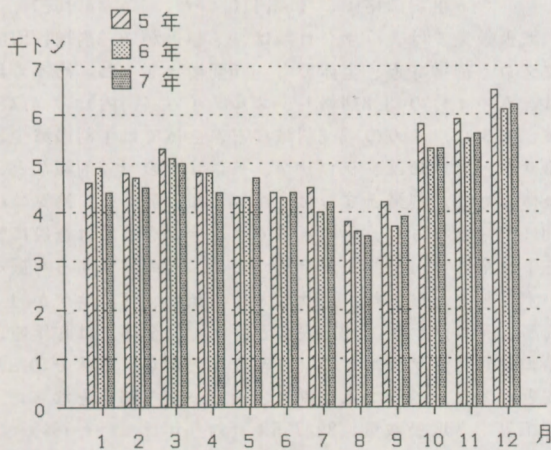


図3-2 貝類平均価格の動き

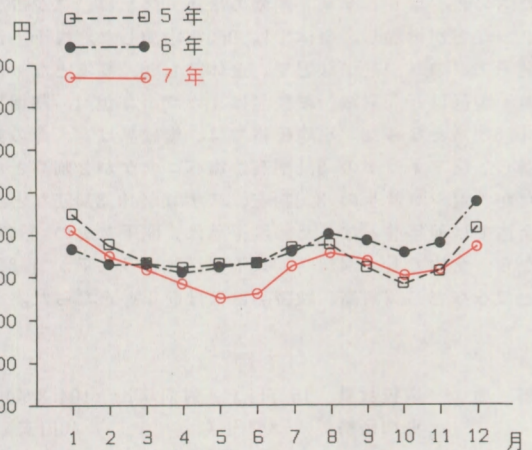


図4-1 冷凍魚取扱数量の動き

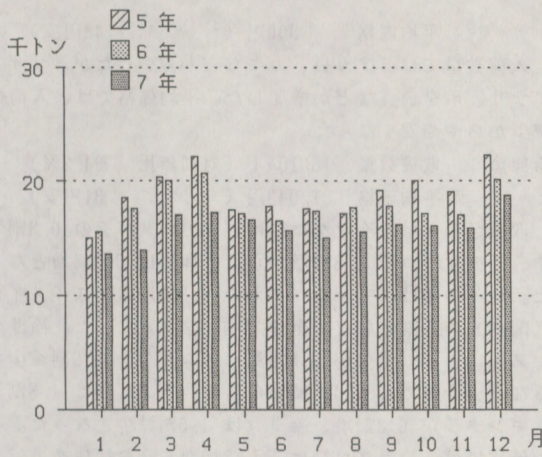
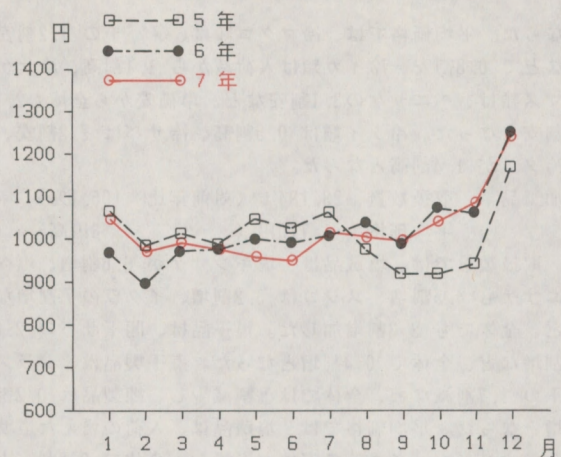


図4-2 冷凍魚平均価格の動き



割高、サバも 1.3割高、品薄のマイワシは 7.3割高、ハマチは 2.4割安、カツオが 3.9割安となった。昨年安かったサンマは 1.9割高となった。

☆活魚 取扱数量 1,146 t (対前年比 106.3%)  
平均価格 1,667円 ( " 225円安)

取扱数量では、活マタイは 1.7割増、活ハマチも 1.3割増、活アナゴは 0.6割増となった。活カンパチは 1.3割減となった。平均価格では、活ハマチが 2.4割安となり、活マタイは 2.2割安、活アナゴが 1.5割安と主力品が値を下げた。入荷の減少した活カンパチは 2.5割高となった。

☆貝類 取扱数量 3,515 t (対前年比 98.2%)  
平均価格 964円 ( " 40円安)

取扱数量では、ホタテ貝、アオヤギなど増加したが、ムキホタテ貝、シジミ、アサリなどが減少した。平均価格では、アカ貝、アオヤギ、ホタテ貝などが安くなった。

☆冷凍魚 取扱数量 15,519 t (対前年比 87.6%)  
平均価格 1,007円 ( " 33円安)

取扱数量では、冷マグロ類は、メバチが 1.2割増、印度マグロの 4割増など、全体では 1.5割の増加となった。冷イカ類は、ムキイカが 2.2割増となったものの、モンコウイカが 4.3割減、スルメイカ(国内)の 3.2割減などで、全体では 0.4割減となった。冷サケ・マス類は、ベニサケの 6.8割減、シロサケが 5.7割減など、全般に入荷少なく全体でも 5.4割減となった。冷タイ類は 5.3割増、冷サバは生鮮物が品薄なことから 3.4割増、冷タコは 0.7割減となった。平均価格では、冷マグロ類は、入荷増から全般に値を下げ 1割安、冷イカ類は、スルメイカ(国内)が 0.8割高となったものの、モンコウイカが 1.4割安、ムキイカの 0.6割安など、全体で 0.7割安となった。冷サケ・マス類は、ベニサケの 3.5割安など、入荷が少ないものの振るわず、全体では 3.2割安、冷エビ類は 0.8割安、冷タイ類は 3.8割安となった。冷サバは 2.6割安、冷タコは 1.2割高となった。

☆加工品 取扱数量 18,842 t (対前年比 92.6%)  
平均価格 771円 ( " 5円高)

取扱数量では、塩蔵品は、イクラが 3.1割増となったものの、塩サケ類がアキサケの 7.5割減、ギンサケの 3.8割減、ベニサケも 1.4割減となるなど、入荷が少なく全体では 1.7割減となった。塩干品は 0.1割減、煮干製品は、シラス干の 3.1割増から、全体でも 0.9割増、練製品は、カマボコの 0.3割増も、チクワが 1.6割減、揚物が 0.4割減で、全体で 0.5割減となった。平均価格では、塩蔵品は、入荷の極端に少ない塩アキサケが 4.5割高となったものの、

数量の減っている塩シロサケ、塩ベニサケ、塩ギンサケ、スジコ、イクラなどが軒並み値を下げ、全体で 0.3割安となった。塩干品は、開干アジが 1.3割高、開干サンマの 0.6割高など、全体では 0.4割高となった。煮干製品は 1.2割高、練製品はほぼ前年並となった。

9月

☆鮮魚 取扱数量 17,990 t (対前年比 107.3%)  
平均価格 850円 ( " 19円安)

取扱数量では、マグロ類は、マグロの輸入物が 1.5割増、国内物は、日本近海の巻網漁の不振や昨年入荷が非常に多かったことから、9.1割減となった。メジは 8.9割増、キワダ(国内)は漁獲量も多く 6.2倍増、メバチは、国内物が 1.9割増、輸入物が 1.4割減となった。マアジは台風の影響もあり 1.1割減、サバ、マイワシ、スルメイカは前年並、ハマチは 3割増となった。カツオは、主漁場の三陸沖で好漁が続く 8.4割増、最盛期を迎えたサンマも 0.9割増となった。平均価格では、マグロ類は、マグロが昨年の安値もあり、国内物が 4.3割高、輸入物も 1.8割高となった。メジは 3.7割安、入荷の多いキワダ(国内)も 3.9割安、メバチは国内・輸入ともやや安くなった。マアジが 2.9割高、マイワシも絶対量の不足から 3割高となった。スルメイカは 2.3割高、ハマチは 2.3割安、カツオは入荷増で 3.1割安、サンマは浜高を反映して 2.5割高となった。

☆活魚 取扱数量 1,102 t (対前年比 109.1%)  
平均価格 1,894円 ( " 112円安)

取扱数量では、活カンパチが 1.2割減となったものの、活アナゴが 1.9割増、活マタイが 1.6割増となった。平均価格では、活カンパチが 3割高となった。活アナゴが 1.6割安、活ハマチが 1.4割安、活マタイは 1.3割安となった。

☆貝類 取扱数量 3,904 t (対前年比 104.7%)  
平均価格 942円 ( " 45円安)

取扱数量では、アサリ、ホタテ貝、シジミ、などが増加した。平均価格は、入荷増から全般にやや安くなった。

☆冷凍魚 取扱数量 16,234 t (対前年比 91.1%)  
平均価格 997円 ( " 9円高)

取扱数量では、冷マグロ類は、主力のメバチの 1割増や印度マグロの 3.5割増から、全体でも 1.3割の増加となった。冷イカ類は、ムキイカが 2.2割増となったものの、モンコウイカが 5.9割減、スルメイカ(国内)の 3.1割減など、全体では 2割減となった。冷サケ・マス類は、シロサケが 4.7割減、ベニサケも 3.3割減少し、全体では 2.6割減となった。冷エビ類は 0.1割減、冷タイ類も 2.9割減と

なった。平均価格では、冷マグロ類は、メバチの 1.2割安などで 0.8割安、冷イカ類は入荷減から 1.1割高、冷サケマス類は、ベニサケの 3.1割安など、単価安から全体も 2.1割安となった。冷タイ類は 0.5割高、冷サバは 2.2割安、冷タコが 1.4割高となった。

☆加工品 取扱数量 23,184 t (対前年比 105.1%)  
平均価格 770円 ( " 8円高)

取扱数量では、塩蔵品は、塩ギンサケが 6.6割増、塩ベニサケも 4.5割増、スジコは 5.8割増、イクラの 7割増など、全体でも 2.3割増加した。塩干品は、開干サバの 2.6割増など、全体で 0.4割増となった。煮干製品は、シラス干の 1.7割減など、全体では 1割減少し、練製品は 0.2割増となった。平均価格では、塩蔵品は、入荷の増えた塩サケ類やスジコ、イクラの安値が影響し、全体で 0.8割安となった。塩干品は、開干アジの 1.5割高など全体で 0.5割高、煮干製品は、煮干イワシの 3.5割高や、シラス干の 1.2割高から、全体で 1.2割高、練製品は 0.2割安となった。

10月

☆鮮魚 取扱数量 17,664 t (対前年比 99.0%)  
平均価格 900円 ( " 19円安)

取扱数量では、マグロ類は、マグロの国内物が 2.6割減、輸入物が 1割増、メジは日本海での大漁など 4倍増、メバチは国内物が 1.6割減、輸入物も 2.9割減となった。マアジは 1.3割減、サバも 1.2割減、マイワシは近海物主体に安定した入荷が見られ 0.3割増となった。北海道主体のスルメイカは 0.6割減、ハマチとカツオ依然順調でともに 1.6割増、南下が遅れるサンマは勢いが落ち 1.3割減となった。平均価格では、マグロ類は、マグロの国内物が入荷減少も振るわず 2.2割安、逆に輸入物は昨年が安値だったことから 1.6割高、メジは入荷多く 3.3割安、メバチは、国内物が 1.5割高、輸入物は 0.7割安となった。入荷減少のマアジは 1.9割高、サバは 1.9割高、まだ量の不足するマイワシも 0.6割高となった。スルメイカは 2.4割高、ハマチが 2割安、カツオは 1.1割安、サンマが 1.9割高となった。

☆活魚 取扱数量 1,132 t (対前年比 103.5%)  
平均価格 1,752円 ( " 89円安)

取扱数量では、活カンパチが 1.4割減、活ハマチが 0.2割減となったが、活マタイが 0.5割増、活アナゴは 0.7割増となった。平均価格では、活カンパチが 3.6割高となり、活マタイは 1割安、活アナゴが 0.7割安となり、活ハマチも 0.6割安となった。

☆貝類 取扱数量 5,342 t (対前年比 101.4%)

平均価格 909円 ( " 48円安)

入荷数量では、アカ貝、カキなどが減少したが、サザエ、アサリ、ホタテ貝などが増加した。平均価格では、入荷の減少からやや安くなった。

☆冷凍魚 取扱数量 16,104 t (対前年比 94.2%)  
平均価格 1,043円 ( " 31円安)

取扱数量では、冷マグロ類は、主力のメバチの 0.8割増や、印度マグロの 1.8割増から、全体では 0.9割増となった。冷イカ類は、モンコウイカの 4.9割増も、スルメイカ(国内)の 5割減など、全体で 0.3割減となった。冷サケ・マス類は、シロサケが 3.5割減、ベニサケも 2.9割減少するなど、全体でも 1.4割減となった。冷エビ類は 1.8割減、冷ギンタラが 0.3割増、冷タコは 1.5割減少となった。平均価格では、冷マグロ類は、入荷増から全般に値を下げ、0.8割安となった。冷イカ類は、モンコウイカの 0.7割安も、全体では 0.6割高、冷サケ・マス類は入荷減少も振るわず 2.1割安となった。冷エビ類は 0.6割安、冷ギンタラは 0.8割安、冷タコは入荷少なく 3.1割高となった。

☆加工品 取扱数量 24,524 t (対前年比 97.5%)  
平均価格 788円 ( " 7円高)

取扱数量では、塩蔵品は、塩ベニサケが 5.7割増、塩ギンサケの 1.8割増も、塩アキサケが 2.5割減、スジコの 1.5割減などで、全体では 0.3割減となった。塩干品は、開干アジの 1割減から 0.5割減、煮干製品は、シラス干の 2.5割増など、全体で 1.4割増となった。素干品は 0.4割減、練製品は 0.5割減、煮タコも 1.4割減となった。平均価格では、塩蔵品は、塩アキサケが 1.1割高となったが、全体では 0.7割安、塩干品は、入荷の減った開干アジの 1.5割高から全体では 0.7割高となった。煮干製品は、煮干イワシが 1.3割高、シラス干の 0.2割高など、全体でも 1.2割高となった。素干品は 2.6割高、練製品も 0.2割高、煮タコが 1.2割高となった。

11月

☆鮮魚 取扱数量 16,871 t (対前年比 99.6%)  
平均価格 986円 ( " 4円安)

取扱数量では、マグロ類は、マグロの国内物が 3.2割、輸入物が 2.4割とともに減少した。メジは巻網漁の大漁が続く 3.7倍増、メバチは、国内物が 1.3割減、輸入物も 1.6割減となった。マアジは時化の影響もあり 2.4割減、サバは九州物などがまとまったが 1.5割減、マイワシは 0.3割増、スルメイカは 0.5割増、ハマチは 1.3割増となった。ほぼ終漁となったサンマは、漁場の南下に伴い低調となり

図 5-1 加工品取扱数量の動き

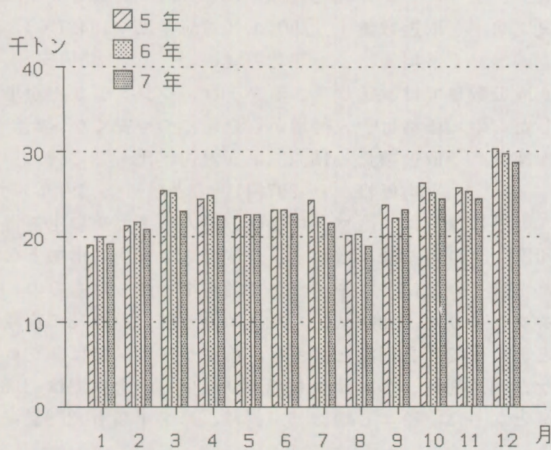
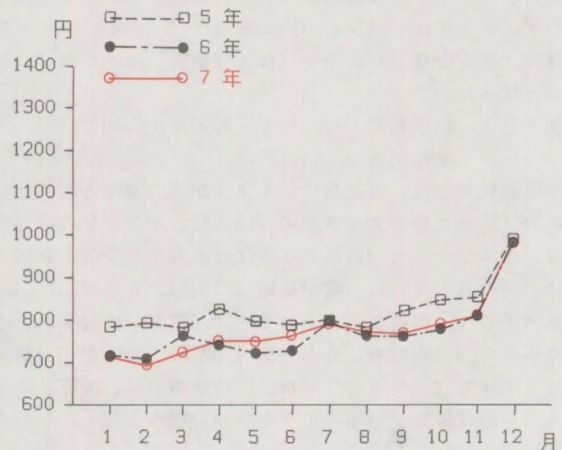


図 5-2 加工品平均価格の動き



1.5割減となった。平均価格では、マグロ類は、マグロ(輸入)が3.5割高、メジは依然入荷が多く4.5割安、メバチは国内・輸入ともほぼ前年並となった。マアジが4割高、サバも2.3割高となった。マイワシは絶対量の不足から4.5割高、スルメイカは0.7割高、ハマチは天然ブリの入荷もあり1.2割安、カツオは1割安、サンマは1.2割高となった。

☆活魚 取扱数量 1,169 t (対前年比 103.2%)  
平均価格 1,687円 ( " 25円高)

取扱数量では、活マタイが1割増、活ハマチが0.9割増となり、活アナゴは前年並、活カンパチは1.6割減少した。平均価格では、活カンパチが4.2割高となったが、活マタイ・活ハマチなどが安値となった。

☆貝類 取扱数量 5,629 t (対前年比 101.7%)  
平均価格 924円 ( " 56円安)

ムキカキ、ホタテ貝などが減少したが、カキは0.8割増、その他、ハマグリ、アサリなどが増加した。平均価格は、ホタテ貝、ムキカキなどが安くなり、全体で0.6割安となった。

☆冷凍魚 取扱数量 15,925 t (対前年比 93.4%)  
平均価格 1,087円 ( " 23円高)

取扱数量では、冷マグロ類は、メバチが0.2割減となったが、印度マグロの1.4割増など、全体で0.2割増となった。冷イカ類は、スルメイカ(国内)が5.1割減など0.9割減、冷サケ・マス類は、シロサケ3.7割減、ベニサケも1.4割減で2.2割減となった。冷エビ類は0.9割減、冷タコは1割増となった。冷ギンタラは1.9割増、冷サバも6.9割の増加となった。平均価格では、冷マグロ類は、全般にやや値を下げ、全体で0.2割安となった。冷イカ類は、モンコウイカの3割高など、入荷の減少から2割高、冷サケ・マス類は、入荷が少ないものの単価安で1.7割安となった。冷エビ類は0.6割安、冷サバは0.4割高となった。

☆加工品 取扱数量 24,498 t (対前年比 96.8%)  
平均価格 810円 ( " 1円安)

取扱数量では、塩蔵品は、塩シロサケの2.9割増、イクラの2.4割増も、塩アキサケが4割の減少など、全体で1.1割減、塩干品は、開干アジの0.9割減で、全体では0.7割減となった。煮干製品はシラス干が0.9割増の0.9割増、練製品はほぼ前年並となった。平均価格では、塩蔵品は、塩サケ類、スジコ、イクラと値を下げ全体では0.4割安、塩干品は、開干アジの1.6割高など全体で1割高となった。煮干製品も0.9割高、練製品は、揚物、カマボコ、チクワが0.1割程高く、全体でも0.1割高となった。

## 12月

☆鮮魚 取扱数量 17,667 t (対前年比 変わらず)  
平均価格 1,203円 ( " 13円安)

取扱数量では、マグロ類は、メジは今月も大漁が続き2.5倍増、キワダ、メバチは国内・輸入とも入荷が減少した。マアジは漁が振るわず1.5割減、サバも3.3割減、マイワシはほぼ前年並となった。スルメイカは0.3割減、ハマチは0.1割増、タラ類は0.3割増、カニ類も0.2割増となった。平均価格では、マグロ類は、メジが1.4割安のほか、入荷減少からやや安め、量が不足しているマアジは2.4割高、サバは6.2割高、マイワシも8.5割高となった。スルメイカは0.6割高、ハマチは前年並、タラ類は0.6割安となった。シロサケが0.7割安、キンメタイも0.6割安となった。

☆活魚 取扱数量 1,465 t (対前年比 99.2%)

平均価格 1,686円 ( " 58円高)

取扱数量では、主力の活アナゴや活マタイが前年並だったものの、活カンパチは2割減、活ハマチが0.3割減となった。平均価格では、活アナゴ、活ハマチ、活マタイがやや安くなったが、その他、全般に値を上げ、全体では0.4割高となった。

☆貝類 取扱数量 6,211 t (対前年比 102.5%)  
平均価格 978円 ( " 98円安)

取扱数量では、ムキカキが1.2割減となったが、アオヤギ、カキ、ハマグリなどが増加した。平均価格では、入荷増から全般に安くなった。

☆冷凍魚 取扱数量 18,768 t (対前年比 93.5%)  
平均価格 1,244円 ( " 8円安)

取扱数量では、冷マグロ類は、主力のメバチが0.6割減で全体でも0.2割減少した。冷イカ類は、スルメイカ(国内)が1.4割減、モンコウイカも2.8割減少するなど、全体では1.3割減、冷サケ・マス類は、シロサケの6割増も、ベニサケが1.9割減など0.8割減となった。冷エビ類は1.2割減、冷ギンタラはも0.6割減、冷サバは生鮮物の不足から1.7割増、冷タコは3.2割減となった。平均価格では、冷マグロ類はほぼ前年並、冷イカ類もモンコウイカが0.7割高となったものの、全体では前年並、冷サケ・マス類は、ベニサケが3割安、シロサケも2.7割安で、全体で2.1割安となった。冷エビ類は0.2割安、冷ギンタラも1.1割安、冷サバは1.6割高で、冷タコも2.7割高くなった。

☆加工品 取扱数量 28,737 t (対前年比 96.9%)  
平均価格 976円 ( " 7円安)

取扱数量では、塩蔵品は、イクラが1.3割増、スジコも1割の増加をしたが、塩サケ類の減少や、塩カズノコの1.8割減など、全体では0.3割の減少となった。塩干品は開干アジの1.2割減で0.4割減、煮干製品は煮干イワシの6.4割増など2.4割増となった。練製品は、カマボコ、揚物、チクワなどの減少で0.5割減、煮タコは1割減、酢タコも2.1割の減少となった。平均価格では、塩蔵品は、スジコが2.8割安、イクラも2.7割安、塩サケ類は全般に安くなり、全体で0.6割安となった。塩干品は、開干品がやや高く、全体では0.8割高、煮干製品はシラス干の1.1割高などで0.4割高、練製品はカマボコ0.2割高など入荷減から0.3割高となった。タコは全般に品薄で、煮タコは1.8割高、酢タコも3.9割高となった。

## 2. 主要品目の取扱高

### (1) マグロ類

生鮮マグロ類の取扱は、数量が2割増となったものの、金額が4.7割減と前年を下回り、平均価格では365円安となった。品目別に見ると、昨年好調だったマグロ(国内)は年間を通じ水揚げが不振で4.8割減で288円高、一方、メジは稀に見る豊漁が続き3.6倍増の大量入荷から438円安、キワダは、国内物5.7割増で374円安、輸入物も0.3割増加した。単価安となったメバチは、国内物が0.6割増の587円安、輸入物は1割減も129円安となった。

冷凍マグロ類の取扱量は、冷印度マグロが好漁で3.5割増、冷メバチも0.3割増で、全体でも0.7割の増加となった。平均価格では、冷印度マグロが赤身主体だったこともあり467円安、冷メバチも130円安となり、全体でも124円安となった。

### (2) マアジ

取扱数量は、前半はやや前年を上回ったものの0.3割減となった。平均価格は547円で、52円高となった。

## (3) サバ

生鮮品は、好調だった昨年には及ばず 1.2割減となった。平均価格は 521円で、96円高となった。冷サバは 0.4割減少し、平均価格も13円安となった。

## (4) マイワシ

取扱数量は、資源の減少も見られ前年比 1.9割減となった。平均価格は 337円で、93円高となった。

## (5) カツオ

豊漁で順調な入荷が続き、取扱数量は 1.6割増となった。平均価格は 493円で、94円安と値を下げた。

## (6) サンマ

漁獲量は多かったものの魚体が小さいことなどから、取扱数量は 1.1割減となった。平均価格は 369円で、44円高となった。

## (7) スルメイカ

生鮮物は、秋口からの入荷減少が影響し、数量では 0.2割減となった。平均価格は 514円で、47円高となった。冷凍物は、全体では 3.5割減少し、平均価格は、国内物が14円安、SA物が20円高となり、全体では、18円安となった。

## (8) 養殖ハマチ

連日の潤沢な入荷で、数量は 4.3割増となった。平均価格は、入荷の多かったことから安値横ばいで、683円の291円安となった。

## (9) サケ・マス類

生鮮サケ・マス類は、ギンサケの 0.4割減も、シロサケが 0.5割増、輸入物が 0.6割の増加で、全体でも 0.4割増となった。平均価格では、シロサケが60円安、ギンサケが81円安、輸入物が60円安となり、全体では62円安となった。

冷凍サケ・マス類は、冷ギンサケが 0.7割増加したが、冷シロサケが 2.1割、冷ペニサケの 2.9割などの減少で、全体では 1.1割減となった。平均価格では、冷シロサケが36円安、冷ペニサケが88円安、冷ギンサケが84円安で、全体では69円安となった。

## (10) エビ類

生鮮エビ類は、クルマエビ（輸入）が 1.5割減、ムキエビが 0.6割減であったものの、アカエビが 4.3割増、イセエビ（輸入）が 0.2割増になるなど、全体でも 0.5割増となった。平均価格では、ムキエビは 7円高となったものの、アカエビが 586円安、クルマエビ（輸入）が 645円安、マキエビが 518円安となるなど、全般に値を下げ、全体では 356円安となった。

冷凍エビ類は、インド物が 0.8割増、インドネシア物が 0.2割増となったが、タイ物が 3.5割減、フィリピン物が 2.8割減、アカエビが 0.9割減など、全体では 1.1割減となった。平均価格では、イセエビ（輸入）が 168円安、インド物が 130円安、オーストラリア物が 185円安、インドネシア物が79円安で、全体でも、46円安となった。

## (11) 加工品

塩サケは、塩シロサケが 2.4割増で 216円安、塩アキサケが 3割減で18円高となった。魚卵では、スジコが 0.8割増の 457円安、イクラが2割増で 816円安となった。開干アジは 2.3割減少して13円高、シラス干は 0.6割の増加でほぼ前年並となった。蒲焼ウナギは 1.2割減で 141円高。干スルメは国内物が増加し、価格は国内物が 172円高、SA物が79円安となった。練製品は、生チクワ、カマボコなどが数量はこなしたものの単価安で、全体では 0.2割減で 7円安、煮タコは 1.7割減で 161円高となった。

## 3. 市場別取扱高

## (1) 築地市場

総取扱高は、640,292 t で前年比96%と減少（25,784 t 減）し、総取扱金額は、596,193百万円で前年比95%と減少（30,218百万円減）した。類別に見ると、鮮魚の取扱数量は、161,182 t（6,179 t 増）で前年比 104%となり、取扱金額は、161,064百万円（1,527百万円減）で 1%減となった。活魚の取扱数量は、12,940 t（591 t 増）で前年比 105%と増加し、取扱金額は、21,709百万円（557百万円減）で3%の減となった。冷凍魚の取扱数量は、168,613 t（21,553 t 減）で前年比89%となり、取扱金額は175,419百万円（19,656百万円減）で前年比90%となり、数量・金額ともに 1割ほど減少した。加工品の取扱数量は、239,048 t（10,784 t 減）で前年比96%となり、取扱金額は、185,206百万円（6,379百万円減）で前年比97%となった。貝類の取扱数量は、48,498 t（391 t 減）で前年比99%となり、取扱金額は、45,804百万円（2,130百万円減）で前年比96%となった。淡水魚の取扱数量は、3,597 t（402 t 増）で前年比 113%となり、取扱金額は、4,597百万円（155百万円増）で前年比 103%と増加した。海藻類の取扱数量は、6,413 t（229 t 減）で前年比97%となり、取扱金額は、2,394百万円（123百万円減）で前年比95%となった。

## (2) 足立市場

総取扱高は、58,456 t で前年比 101%と増加（476 t 増）し、総取扱金額は、48,835百万円で、前年比97%と減少（1,736百万円減）した。類別に見ると、鮮魚の取扱数量は、14,825 t（471 t 増）で前年比 103%となり、取扱金額は、11,992百万円（207百万円減）で前年比98%となった。活魚の取扱数量は、823 t（52 t 減）で前年比94%となり、取扱金額は、1,070百万円（153百万円減）で前年比88%となった。冷凍魚の取扱数量は、13,008 t（665 t 減）で前年比95%となり、取扱金額は、11,819百万円（964百万円減）で前年比92%となった。加工品の取扱数量は、23,032 t（454 t 増）で前年比102%となり、取扱金額は、18,766百万円（314百万円減）で前年比98%となった。貝類の取扱数量は、5,538 t（182 t 増）で前年比 103%となり、取扱金額は、4,364百万円（69百万円減）で前年比98%となった。淡水魚の取扱数量は、434 t（41 t 増）で前年比 110%となり、取扱金額は、482百万円（27百万円減）で前年比95%となった。海藻類の取扱数量は 795 t（45 t 増）で前年比 106%となり、取扱金額は、343百万円で前年と同じだった。

## (3) 大田市場

総取扱高は、39,488 t で前年比 102%と増加（715 t 増）し、総取扱金額は、35,145百万円で前年比98%と減少（820百万円減）した。類別に見ると、鮮魚の取扱数量は、15,764 t（1,063 t 増）で前年比107%となり、取扱金額は12,355百万円（579百万円増）で前年比105%となった。活魚の取扱数量は、886 t（208 t 増）で前年比 131%となり、取扱金額は、1,382百万円（245百万円増）で前年比 122%と大幅に増加した。冷凍魚の取扱数量は、9,960 t（712 t 減）で前年比93%となり、取扱金額は、9,734百万円（1,468百万円減）で前年比87%となった。加工品の取扱数量は、10,101 t（50 t 増）で前年比 101%となり、取扱金額は、9,076百万円（222百万円減）で前年比98%となった。貝類の取扱数量は、2,114 t（6 t 増）で前年から僅かに増となり、取扱金額は、1,973百万円（21百万円

減)で前年比99%となった。淡水魚の取扱数量は、273t(50t増)で前年比122%となり、取扱金額は、377百万円(16百万円減)で前年比96%となった。海藻類の取扱数量は、390t(49t増)で前年比114%となり、取扱金額は、249百万円(84百万円増)で前年比151%となった。

#### 4. 卸売業者別取扱高

##### (1) 築地市場

###### ① 大都魚類(株)

総取扱数量は、130,955tで、前年比93%と減少し、トップを明け渡した。総取扱金額は、120,552百万円で、前年比92%と減少した。類別には、数量では、鮮魚は3%増加(953t増)、活魚はほぼ前年並み、冷凍魚は15%減少(8,849t減)、加工品は7%減少(2,159t減)となった。貝類は1%減少(126t減)となった。金額では、淡水魚は24%増加(265百万円増)、鮮魚はほぼ前年並、冷凍魚は14%減少(7,332百万円減)、加工品は8%減少(1,985百万円減)、貝類は8%減少(1,000百万円減)となった。

###### ② 中央魚類(株)

総取扱数量は、131,714tで、前年比98%と減少し、総取扱金額は、142,827百万円で、前年比97%と減少したが、3年ぶりに数量・金額ともトップとなった。類別には、数量では、鮮魚が5%増加(2,136t増)となった。貝類は僅かに前年を上回り、冷凍魚は8%減少(4,448t減)、加工品は3%減少(682t減)となった。金額では、鮮魚はやや前年を上回り、貝類も前年並、活魚は6%減少(362百万円減)、冷凍魚は5%減少(3,198百万円減)、加工品は2%減少(393百万円減)となった。

###### ③ 東都水産(株)

総取扱数量は、120,886tで、前年比97%と減少し、総取扱金額は、124,688百万円で、前年比96%と減少した。類別には、数量では、活魚は7%増加(142t増)、鮮魚は4%増加(1,457t増)、加工品は1%増加(1,255t増)、冷凍魚は11%減少(4,695t減)、貝類は5%減少(350t減)となった。金額では、鮮魚、活魚がわずかに増加したものの、冷凍魚は10%減少(4,289百万円減)、加工品は2%減少(716百万円減)となった。

###### ④ 築地魚市場(株)

総取扱数量は、118,623で、前年比99%と減少し、総取扱金額は、102,126百万円で、前年比95%と減少した。類別には、数量では、鮮魚が7%増加(2,213t増)、冷凍魚は7%減少(1,668t減)、加工品は5%減少(2,338t減)、貝類も2%減少(187t減)となった。金額では、活魚が2%増加(110百万円増)、冷凍魚は10%減少(3,005百万円減)、加工品は4%減少(1,239百万円減)、貝類は4%減少(344百万円減)、鮮魚も3%減少(1,036百万円減)となった。

###### ⑤ 第一水産(株)

総取扱数量は、51,791tで、前年比93%と減少し、総取扱金額は、47,996百万円で、前年比93%と減少した。類別には、数量では、活魚は47%増加(142t増)、貝類は2%増加(184t増)、冷凍魚は20%減少(1,893t減)、加工品は8%減少(1,507t減)、鮮魚も3%減少(580t減)となった。金額では、活魚は28%増加(97百万円増)、冷凍魚は18%減少(1,801百万円減)、加工品も7%減少(1,056百万円減)、鮮魚も4%減少(635百万円減)となった。

###### ⑥ 丸千代田水産(株)

総取扱数量は、72,564tで、前年比95%と減少し、総取扱金額は、44,967百万円で、前年比98%と減少した。加工品の取扱としては、数量・金額ともに本年もトップとなった。類別には、数量では、海藻類が4%増加(69t増)し、加工品は5%減少(3,609t減)した。金額では、海藻類は4%増加(23百万円増)となり、加工品は3%減少(1,167百万円減)となった。

###### ⑦ 総合食品(株)

総取扱数量は、13,759tで、前年比95%と減少し、総取扱金額は、13,039百万円で、前年比101%と増加した。類別には、数量では、海藻類は33%減少(20t減)し、加工品は5%減少(744t減)となった。金額では、加工品は1%増加(175百万円増)し、海藻類は12%減少(5百万円減)となった。

##### (2) 足立市場

###### ① 東京北魚(株)

総取扱数量は、22,074tで、前年比99%と減少し、総取扱金額は、17,392百万円で、前年比96%と減少した。類別には、数量では、貝類は3%増加(68t増)し、加工品は2%増加(219t増)したが、活魚は30%減少(91t減)、冷凍魚は6%減少(288t減)となり、鮮魚はほぼ前年並となった。金額では、貝類は5%増加(76百万円増)となったが、冷凍魚は13%減少(546百万円減)、鮮魚は2%減少(68百万円減)、加工品もやや下回った。

###### ② 大都魚類(株)千住支社

総取扱数量は、19,642tで、前年比107%と増加したが、総取扱金額は、15,961百万円で、前年比99%と減少した。類別には、数量では、鮮魚は13%増加(625t増)、貝類は6%増加(103t増)、加工品は5%増加(377t増)、冷凍魚も前年を上回った。金額では、鮮魚は6%増加(263百万円増)となったものの、冷凍魚は5%減少(199百万円減)、貝類が9%減少(136百万円減)、加工品もわずかに減少した。

###### ③ 中央魚類(株)千住支社

総取扱数量は、16,740tで、前年比96%と減少し、総取扱金額は、15,482百万円で、前年比94%と減少した。類別には、数量では、活魚は9%増加(31t増)、貝類もやや増加した。冷凍魚は9%減少(413t減)、鮮魚は3%減少(131t減)、加工品も3%減少(142t減)となった。金額では、貝類は前年並、鮮魚は9%減少(403百万円減)、加工品は5%減少(229百万円減)、冷凍魚も5%減少(219百万円減)となった。

##### (3) 大田市場

###### ① 東京大田魚市場(株)

総取扱数量は、21,728tで、前年比103%と増加し、総取扱金額は、20,129百万円で、前年とほぼ同じだった。類別には、数量では、活魚は14%増加(17t増)、鮮魚が9%増加(757t増)、貝類も9%増加(89t増)で、加工品は8%減少(424t減)となった。金額では、貝類は7%増加(73百万円増)、鮮魚も5%増加(375百万円増)となった。加工品は5%減少(271百万円減)、冷凍魚は3%減少(191百万円減)となった。

###### ② (株)大田合水

総取扱数量は、17,760tで、前年比101%と増加し、総取扱金額は、15,016百万円で、前年比94%と減少した。類別には、数量では、活魚は35%増加(191t増)、加工品は11%増加(474t増)、鮮魚は5%増加(307t増)した。冷凍魚は17%減少(793t減)となった。金額では、活魚は27%増加(241百万円増)、鮮魚は5%増加(205

百万円増)、冷凍魚は25%減少(1,277百万円減)、貝類も10%減少(95百万円減)となった。

#### (4) 買付比率

全体の買付比率は、数量では、47.6%と前年を1.3ポイント下回り、金額でも、47.3%と前年を1.0ポイント下回った。市場別に見ると、築地市場の買付比率は、数量では、47.4%と前年を1.5ポイント下回り、金額では、46.2%と前年を1.1ポイント下回った。足立市場の買付比率は、数量では、43.6%と、前年を0.5ポイント上回り、金額では、49.9%と前年を0.2ポイント下回った。大田市場の買付比率は、数量では、57.9%と前年を0.5ポイント上回り、金額では、62.2%と前年を0.8%下回った。

卸売業者別に見ると、大都魚類は、数量では、46.5%と前年を2.4ポイント下回り、金額では、44.3%と前年を1.4ポイント下回った。中央魚類は、数量では、46.0%と前年を2.8ポイント下回り、金額では、46.3%と前年を1.5ポイント下回った。東都水産は、数量では、46.2%と前年を1.3ポイント下回り、金額では、43.9%と前年を1.6%下回った。築地魚市場は、数量では、34.8%と前年を1.4ポイント下回り、金額では、33.5%と前年を1.5ポイント下回った。第一水産は、数量では、36.1%と前年を0.8ポイント下回り、金額では、41.9%と前年を0.7ポイント下回った。丸千代田水産は、数量では、82.8%で前年を1.3ポイント上回り、金額では、86.2%と前年を0.5ポイント上回った。総合食品は、数量では、44.2%と前年を3.8ポイント上回り、金額では、63.0%と前年を4.1ポイント上回った。

東京北魚は、数量では、43.5%と前年を1.1ポイント上回り、金額では、54.5%と前年を0.6ポイント上回った。大都魚類千住支社は、数量では、44.3%と前年を3.7ポイント上回り、金額では、47.0%と前年を1.3ポイント上回った。中央魚類千住支社は、数量では、43.1%と前年を3.4ポイント下回り、金額では、47.7%と前年を2.6ポイント下回った。

東京大田魚市場は、数量では、60.7%と前年を1.0ポイント上回り、金額では、66.1%と前年を0.5ポイント下回った。大田合水は、数量では、54.4%と前年を0.4ポイント下回り、金額では、57.0%と前年を1.5ポイント下回った。

### 5. 出荷地別取扱高

#### (1) 総取扱高

都道府県別の取扱高数量のベスト10は、1位東京・2位静岡・3位千葉・4位宮城・5位北海道・6位三重・7位青森・8位愛知・9位神奈川・10位福島で、前年の6位と7位が入り替わった。取扱高金額のベスト10は、1位東京・2位静岡・3位北海道・4位千葉・5位宮城・6位神奈川・7位青森・8位三重・9位大阪・10位愛知で、大阪が前年の7位から9位に下がり、三重が前年の10位から8位に上がっている。

#### (2) 鮮魚取扱高

東京が1位、以下2位千葉・3位宮城・4位北海道・5位青森まで前年と変わらず、6位愛媛・7位三重・8位長崎・9位鹿児島・10位福岡となり、10位に福岡が入った。

#### (3) 冷凍魚取扱高

東京が前年に続き1位となった。2位静岡・3位神奈川・4位千葉・5位青森・6位宮城・7位大阪・8位北海道・9位愛知・10位三重となった。神奈川、千葉が順位を上げ、三重が10位に入った。

#### (4) 加工品取扱高

これも、東京が前年に続き第1位となった。2位千葉・3位宮城・4位静岡・5位北海道・6位福島・7位愛知・8位茨城・9位神奈川・10位兵庫となった。

表 1 年次別取扱高

(単位：トン・千円・%)

	平成 7 年	6 年	5 年	4 年	3 年	2 年	元年
総数量 前年比	738,236 96.8	762,829 97.5	782,782 96.9	807,920 97.0	832,532 98.3	847,319 97.7	867,538 98.4
総金額 前年比	680,172,945 95.4	712,946,992 95.3	748,202,651 92.9	804,962,014 97.4	826,250,552 97.9	843,694,370 103.7	813,943,824 102.8

表 2 - 1 年次別魚種別取扱数量

(単位：トン・%)

年次 魚種	平成 7 年		6 年		5 年		4 年		3 年		前年比					7年 2年
	数量	構成比	数量	構成比	数量	構成比	数量	構成比	数量	構成比	7年	6年	5年	4年	3年	
総数	738,236	100.0	762,829	100.0	782,782	100.0	807,920	100.0	832,532	100.0	96.8	97.5	96.9	97.0	98.3	87
鮮魚	191,772	26.0	184,057	24.1	186,230	23.8	192,185	23.8	181,416	21.8	104.2	98.8	96.9	105.9	104.6	111
活魚	14,650	2.0	13,902	1.8	13,622	1.7	13,411	1.7	12,900	1.5	105.4	102.1	101.6	104.0	102.5	116
貝類	56,149	7.6	56,352	7.4	58,873	7.5	59,906	7.4	59,280	7.1	99.6	95.7	98.3	101.1	96.9	92
冷凍魚	191,581	26.0	214,511	28.1	226,675	29.0	246,266	30.5	268,264	32.2	89.3	94.6	92.0	91.8	93.9	67
淡水魚	4,305	0.6	3,812	0.5	3,748	0.5	4,427	0.5	4,535	0.5	112.9	101.7	84.7	97.6	106.9	101
海藻類	7,599	1.0	7,733	1.0	7,651	1.0	7,505	0.9	7,672	0.9	98.3	101.1	101.9	97.8	98.6	98
加工品	272,181	36.9	282,461	37.0	285,988	36.5	284,240	35.2	298,465	35.9	96.4	98.8	100.6	95.2	98.6	90

表 2 - 2 年次別魚種別取扱金額

(単位：百万円・%)

年次 魚種	平成 7 年		6 年		5 年		4 年		3 年		前年比					7年 2年
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	7年	6年	5年	4年	3年	
総数	680,173	100.0	712,947	100.0	748,203	100.0	804,962	100.0	826,251	100.0	95.4	95.3	92.9	97.4	97.9	81
鮮魚	185,410	27.3	186,566	26.2	192,123	25.7	200,208	24.9	197,486	23.9	99.4	97.1	96.0	101.4	102.7	96
活魚	24,161	3.6	24,626	3.5	25,677	3.4	25,348	3.1	26,053	3.2	98.1	95.9	101.3	97.3	97.8	91
貝類	52,141	7.7	54,362	7.6	56,178	7.5	59,899	7.4	62,397	7.6	95.9	96.8	93.8	96.0	99.5	83
冷凍魚	196,972	29.0	219,061	30.7	229,065	30.6	264,618	32.9	282,598	34.2	89.9	95.6	86.6	93.6	92.3	64
淡水魚	5,455	0.8	5,343	0.7	5,125	0.7	5,526	0.7	5,885	0.7	102.1	104.3	92.7	93.9	105.3	98
海藻類	2,986	0.4	3,025	0.4	3,223	0.4	3,386	0.4	3,405	0.4	98.7	93.9	95.2	99.4	108.3	95
加工品	213,047	31.3	219,964	30.9	236,872	31.7	245,977	30.6	248,427	30.1	96.9	92.9	96.3	99.0	100.5	86

表 2 - 3 年次別魚種別平均価格

(単位：キロ当り円・%)

年次 魚種	平成 7 年		6 年		5 年		4 年		3 年		対平成 2 年指数				
	価格	前年比	価格	前年比	価格	前年比	価格	前年比	価格	前年比	7年	6年	5年	4年	3年
総数	921	98.5	935	97.8	956	96.0	996	100.4	992	99.6	92	94	96	100	100
鮮魚	967	95.4	1,014	98.3	1,032	99.0	1,042	95.7	1,089	98.2	87	91	93	94	98
活魚	1,649	93.1	1,771	94.0	1,885	99.7	1,890	93.6	2,020	95.4	78	84	89	89	95
貝類	929	96.3	965	101.3	953	95.3	1,000	95.0	1,053	102.7	91	94	93	98	103
冷凍魚	1,028	100.7	1,021	101.0	1,011	94.0	1,075	102.1	1,053	98.2	96	95	94	100	98
淡水魚	1,267	90.4	1,402	102.5	1,368	109.6	1,248	96.2	1,297	98.5	96	106	104	95	98
海藻類	393	100.5	391	92.9	421	93.3	451	101.6	444	109.9	97	97	104	112	110
加工品	783	100.5	779	94.1	828	95.7	865	104.0	832	101.8	96	95	101	106	102

表 3 — 1 市場別・年次別取扱数量

(単位: トン・円)

市場	年次 区分	平成 7 年		6 年		5 年		4 年		3 年	
			構成比		構成比		構成比		構成比		構成比
総数	数量 前年比	738,236 96.8	100.0	762,829 97.5	100.0	782,782 96.9	100.0	807,920 97.0	100.0	832,532 98.3	100.0
築地	数量 前年比	640,292 96.1	86.7	666,076 97.5	87.3	683,173 97.0	87.3	704,169 97.1	87.2	725,178 97.0	87.1
足立	数量 前年比	58,456 100.8	7.9	57,980 93.7	7.6	61,890 93.7	7.9	66,051 98.8	8.2	66,833 100.5	8.0
大田	数量 前年比	39,488 101.8	5.3	38,773 102.8	5.1	37,719 100.0	4.8	37,701 93.0	4.7	40,521 121.1	4.9

表 3 — 2 市場別・年次別取扱金額

(単位: 百万円・%)

市場	年次 区分	平成 7 年		6 年		5 年		4 年		3 年	
			構成比		構成比		構成比		構成比		構成比
総数	金額 前年比	680,173 95.4	100.0	712,947 95.3	100.0	748,203 92.9	100.0	804,962 97.4	100.0	826,251 97.9	100.0
築地	金額 前年比	596,193 95.2	87.7	626,411 95.4	87.9	656,884 92.8	87.8	707,680 97.0	87.9	729,761 96.7	88.3
足立	金額 前年比	48,835 96.6	7.2	50,571 90.8	7.1	55,717 90.6	7.4	61,467 102.5	7.6	59,949 103.5	7.3
大田	金額 前年比	35,145 97.7	5.2	35,965 101.0	5.0	35,602 99.4	4.8	35,815 98.0	4.4	36,540 118.8	4.4